

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	アクティブラーニング入門
科目基礎情報					
科目番号	0010	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	都市システム工学科	対象学年	1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	『学習設計マニュアル』（北大路書房）				
担当教員	竹岡 篤永				
到達目標					
1) 高専（高等教育機関）で必要とされる自律的な学び方を実践することができる。 2) 協同学習の基本技法を実践することができる。 3) 授業時間外に自主的な学習することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目 1 (1)	自分自身の学習スタイル・特徴に基づいて、自分にふさわしい自律的な学び方がどのようなものであるかを説明できる。	自分自身の学習スタイル・特徴を判定でき、学んだ範囲の自律的な学び方について説明できる。	学習スタイル・特徴、自律的な学び方を説明できない。		
評価項目 1 (2)	自分自身の学習スタイル・特徴に基づいて、自分にふさわしい学び方を実践できる。	自分にふさわしい学び方を実践できる。	自分にふさわしい学び方を実践できない。		
評価項目 2 (1)	学んだ範囲の協同学習の基本技法について、それぞれの特徴を挙げながら説明ができる。	いくつかの協同学習の基本技法の説明ができる。	協同学習の基本技法の説明できない。		
評価項目 2 (2)	学んだ範囲の協同学習の基本技法をすべて実践できる。	学んだ範囲の協同学習の基本技法をいくつか実践できる。	協同学習の基本技法を実践できない。		
評価項目 3	副学習教材について、授業時間外に自主的に学習を進めることができた、合格基準に達することができた。	副学習教材について、促しに応じて学習を進めることができ、合格基準に達することができた。	副学習教材について、学習を進めることができず、合格基準に達することができなかった。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	高等教育機関（高専）は、「自ら課題を設定し、それにふさわしい解を見つけ出す」方法を身につける場です。そのためには、自ら進んで、また、自分にふさわしい方法で行う練習が必要になります。アクティブラーニング入門は、このような方法について学び、練習をし、できるようになるために設定された科目です。				
授業の進め方・方法	テキストに基づいて、さまざまな学び方の技法を学びます。ほんとうに学べているのか、クイズや練習問題で確かめ、それらの学びを自分でどう実践していくのかを整理して書いてもらいます。また、グループワークによって、学びを確かめる機会も設けています。				
注意点	1) パソコンなどのICT機器を使います。操作に慣れていない人は早めに慣れる必要があります。ただし、授業中には練習の機会は設けません。 2) 授業外にeラーニングシステム（Moodle）を使った副学習（タスク）があります。これらの活動も評価の対象とします。 3) 全授業の1/4以上を休んだ場合、最終評価を受けることはできません。 4) 最終評価には4つの項目があります。練習問題・タスク・試験・最終レポートです。以下の条件によって最終評価を出します。 <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題→全部を提出し、かつ、6割以上の得点を得ること ・タスク→全部を提出し、かつ、6割以上の得点を得ること ・試験→6割以上の得点を得ること ・最終レポート→6割以上の得点を得ること 				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	自分の学びと向き合う（オリエンテーション）	学習を取り巻く環境、学びの深さ、これからの学びの重要性に基づいて、学びのデザインの必要性が説明できる。	
		2週	学び合う下地をつくる	学びの場で予測される多様性について説明でき、傾聴・アサーティブが実践できる。	
		3週	高専での期待とこれからの目標	高専での期待とこれからの目標について説明できる。	
		4週	学習スタイルを把握する	学習スタイルの違いについて説明でき、自分にあった学習スタイルを実践できる。	
		5週	時間を管理する	タイムマネジメントの方法を例示でき、締め切りとできばえを意識した時間管理ができる。	
		6週	失敗に強くなる	失敗から学ぶ方法を説明でき、自律的援助を活用した学びが実践できる。	
		7週	学習意欲を高める	自らが抱えている学習意欲の問題について説明でき、学習意欲を高めることができる。	
		8週	理解を促す	教え方の組み立てについて説明でき、不足があれば自ら補うことができる。	
	4thQ	9週	中間試験	ここまで学んだことが説明できる。	
		10週	中間試験の振り返り	中間試験を振り返り、自分にふさわしい学習方法を見いだすことができる。	
		11週	仲間と力を合わせる	協同学習の重要性を説明でき、協同学習のグランドルールを提案できる。	
		12週	意見を出し合い整理する	協同学習の技法を説明でき、ブレインストーミング、KJ法の練習が実践できる。	

	13週	協同学習の練習① (テーマを決める)	これまでに学んだ協同学習の技法を活用しながら、グループでテーマが設定できる。
	14週	協同学習の練習② (計画する)	これまでに学んだ協同学習の技法を活用しながら、グループで設定したテーマの実行計画が立てられる。
	15週	協同学習の練習③ (発表する)	決めたテーマに沿って調べたこと、考えたことを発表し、意見を述べたり、意見を聞いたりできる。
	16週	半年間の振り返り(最終レポート)	半年間の学びに沿って、自らの実践とこれからの計画について書くことができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的 能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	後1,後2,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	後1,後2,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後16
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	後2,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	後3,後11,後12,後13,後14,後15
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	後3,後11,後12,後13,後14,後15
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	後11,後12,後13,後14,後15
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	後2,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	後12,後13,後14,後15,後16
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	後12,後13,後14,後15,後16
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	後3,後12,後13,後14,後15,後16
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	後3,後15
あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15				

			複数の情報を整理・構造化できる。	3	後3,後10,後12,後13,後14,後15,後16
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	後11,後12,後13,後14,後15,後16
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	後1,後3,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	後11,後12,後13,後14,後15
			どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			目標の実現に向けて計画ができる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	後5,後6,後7,後8,後10
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	後11,後12,後13,後14,後15
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	後11,後12,後13,後14,後15

			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後11,後12,後13,後14,後15
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	後13,後14,後15
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	後13,後14,後15
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	後13,後14,後15
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	後3,後16
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	後3,後7,後8,後16
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	後1,後3,後5,後10,後16
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	後6,後16
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

評価割合

	練習問題	Moodleタスク	試験	最終レポート	合計
総合評価割合	20	20	20	40	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	20	20	40	100